21003 人間福祉演習 I f Seminar on Human Welfare I		3 年次～ 通年 4 単位	
担当者	藤島 稔弘	履修可能学科	W必
		関連資格	教職(W)
サブタイトル	データに基づいて福祉問題を考える		
授業内容 ・ ねらい	<p>福祉分野に限ったことではないです、近年はリサーチリテラシー（調査能力）に関する理解が求められるようになってきました。その要因としては、アカウントビリティ（説明責任）とエビデンス（根拠・証拠）という考え方の影響があり、自らの取り組みについてその効果や重要性について根拠をもって、そのステークホルダー（利害関係者）に説明できなければならなくなってきています。</p> <p>そのため、本ゼミでは社会調査の手法を用いて、自らデータを収集・分析することでデータの取り扱い方を習得し、データに基づいて福祉問題を考えられるようになることを目指したいと思います。</p> <p>特に前期は、既存のデータを活用した研究手法について学ぶ。後期については、自らデータを収集し、分析を行うことで社会調査の一連の過程を行う。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 テーマの設定① 2 テーマの設定② 3 テーマの設定③ 4 先行研究の調査方法の理解① 5 先行研究の調査方法の理解② 6 先行研究の調査方法の理解③ 7 既存データの活用の理解① 8 既存データの活用の理解② 9 既存データの活用の理解③ 10 分析手法の理解① 11 分析手法の理解② 12 分析手法の理解③ 13 分析手法の理解④ 14 発表報告と報告書作成方法の理解① 15 発表報告と報告書作成方法の理解② 	<ol style="list-style-type: none"> 1 テーマの設定 2 先行研究調査① 3 先行研究調査② 4 調査の企画① 5 調査の企画② 6 調査票の作成① 7 調査票の作成② 8 調査の実施① 9 調査の実施② 10 データの集計 11 データの分析① 12 データの分析② 13 発表報告・報告書の作成① 14 発表報告・報告書の作成② 15 発表報告・報告書の作成③ 	
教科書 参考書	ゼミの中で紹介します。		
評価方法	演習での積極性、課題の達成状況、発表報告、報告書などから総合的に評価します。		
事前準備学習 履修条件等	パソコンの使用頻度が高いため、パソコンを所持しているか、自由に使用できる環境があることが望ましいです。		